

分からせ 対抗教習

山牧田 湧進



【まえがき】

※【ご注意ください】

- ・この作品はフィクションです。実在の人物・地名・団体等とは一切関係ありません。
- ・この作品は成人ゲイ向け官能小説であり、男性同性愛を語っています。同性愛に嫌悪感を抱く方はご覧にならないよう、お願い申し上げます。
- ・この作品は表現の誇張、強調や省略のある、必ずしも現実には即していないファンタジーであることをご了承ください。
- ・特に作品中の性的描写は、現実の性交渉における性病等のリスクを意図的に排除しています。現実と混同しないよう、ご注意願います。
- ・この作品は想像して楽しんでいただくものです。現実との区別を付けられず、犯罪や迷惑行為に及ぶ危険のある方はご覧にならないでください。

【あらすじ】

山奥に一人籠もって生活する男盛りの犬養に潜む大きな問題にいち早く気づき、手を差し伸べた万道は、精神的な面も含めて犬養の暮らしを楽にするための提案をした。

それは、簡単に言うと、極少人数のパトロンに資金援助をしてもらうという選択。

人見知りの強い犬養は半自給自足生活を送るに当たって調達しなければならぬ資金を山荘を経営して宿泊客を募るという手段に頼っていたのだが、より少ない人数から高額支援してもらえる形にした方が人見知りの犬養には気が楽になるのではないかと万道は考えた。

また、『性欲の塊』である万道が驚くほどの『性欲の塊』だった犬養に、その性欲を上手く満たし精力を発散出来る環境を作ってやりたいと考えた万道は自身の顧客の一部を紹介しようと考えた。

強過ぎる犬養の性欲と精力を厄介者ではなく武器と考えて、それを元手に資金調達の手段に出来るようにしようと考えたのだった。

即ちそれは今万道が行っている副業とほぼ同じ仕事になるわけだが、ちょうど時代の潮目の移り変わりも感じていた頃合いだったこともあり、自身の今後の身の振り方も考慮して、少しやり方を変えた方が良いのかも知れない、と万道は策を練ることにした。

こうして今回初めて、犬養は万道と共に仕事としてその精力を開放することになったのだが……？

【主な登場人物】

・犬養 耕（いぬかい おさむ）

物語上の一人称「私」。だが、性的興奮が高まってくると、声のトーンが一段下がり「俺」に変わる癖がある。奇跡的な容姿を持ちつつも山奥に引き籠もって一人で半自給自足生活をしている人見知りの奥手。温厚で聡明、力持ち、と一人で生活を完結できる力量を備えた白熊だが、健康な肉体に宿る強大な性欲と精力を本人自身が気付かないように長年抑え込んできた結果少々破綻が見え始めていた。そこをある意味性のエキスパートでもある万道に見抜かれて救われて、今徐々にその本来の性欲を十分に満たし精力を開放して行く過程にある。一般に滅多にお目に掛かれないため、現実はその姿を見た人々から『伝説の白熊』と渾名されることがままある。（犬養の経緯については『白熊山荘』『黒熊 meets 伝説の白熊』『Starring 犬養耕』『白熊の冬籠り』を参照）

・利根 万道（とね ばんどう）

物語上の一人称「俺」。元性犯罪者、現更生させる側。キャッチフレーズは『一日3発』。副業として本人の特性を活かしてとことん犯し尽くすサーピスを展開している。慰安旅行で訪れた先が偶然犬養の住む山荘で二人はそこで初めて出会うが、万道はそれ以前に酒場で『伝説の白熊』の話をかきかき覚えて覚えており、それが犬養のことであると気付く。暴走していた万道とひたすら抑え込む犬養は真逆のようにも見えたが根っこの本質は同じであると万道は見抜き、単なる利己でもあったが犬養に救い（だけでなく）の手を差し伸べた。更生施設ではやんちゃな三男だが犬養と居るときは頼れるお兄ちゃん。今回も犬養の生活を心配して犬養の特性を活かした資金調達方法を考案し、いよいよ実現に至った。（利根の経緯については『山奥の更生施設にて』『5, と過ごす犯られ三昧ツアー』『黒熊 meets 伝説の白熊』『白熊の冬籠り』を参照）

表紙	1
まえがき	2
あらすじ	3
主な登場人物	5
第1章 新サービスを犬養と	8
第2章 予定通り進む訳が無い	14
第3章 本領発揮	16
第4章 オーバーキルの矛先	18
第5章 伝説が生まれる現場	20
奥付	22

第1章

新サービスを犬養と

昨今の実質的な表現規制の是非はさておき、表現の流通の首根っこをぎゅうぎゅうに締め続けられたせいも悪くも悪くも変化を余儀なくされた面もあって、例え『ごっこ』であってもそのような表現をすること自体が憚はばられるようになって来た感は否めない。

残念なことに『言葉狩り』に一人で抗うメリットなど皆無である一方、リスクは確実に山ほどあるのが現実だ。

ちよっと思うところがあって、万道は少し考えていた。

山奥の更生施設が職場兼住所となっている万道は世間との接点が厚いとは全く言えないが、それでも職業柄そういう際きわに立っているような仕事をしているせいか、客層の変化というか傾向の変化みたいなものは薄々感じていたようだ。

その土地では大変珍しい大雪に閉ざされた犬養との冬籠りで話が一步進展はしたものの、自身の副業のことも含めて、果たしてこのまま延長線上にコトを進め

て行つて良いものかどうか、少し見直してみた方が良いんじゃないか、と万道は思つていたのだ。

それに、今の万道のそのままを犬養と一緒に行ったところで、人数が増えるだけじゃないか、という思いもあった。

そもそも、人数が増えるだけなら、もう既に、今の更生施設の面々が度々乱入しているのだから、面子が入れ替わるだけじゃないのか。

確かに犬養は良い男だ。一部界限で『伝説の白熊』と呼ばれただけのことはある。

しかも、経験は少ないようだが、やたらと上手いし性欲も精力も突き抜けていてこの辺りは百戦錬磨海千山千の万道でも太刀打ちできないほど非の打ち所が無い。

普通の『高額売り』でも全くやれるだろう。

だけど、それではあまりに勿体無い。

何か犬養ならではの長をを活かしたプレイスタイルを考えられないものだろうか、と万道は考えを巡らせていたのだ。

犬養はエッチなモードに切り替わるとあんなに性豪で性獣の王みたいな存在なのに、不思議なことに普段はあまりエッチな妄想をしないタイプのように、この辺り犬養と二人で相談しようにもあまり話が弾まず、いや、犬養が話に乗ろうとしないわけではなくて万道の話に犬養が付いていけないことが多く、万道が一方的に説明しては犬養が驚いたり感心したりといった流れになってばかりだから、ブレインストーミングは万道一人で行う方が正直だった。

もうちつとエッチに開放的になってくても良いのになあ、と万道は思うのだが、しかし同時に、実際にコトを始めるとそんな問題は塵散りどころか消滅してしまいうくらい実力で圧倒してくるので、いやまあ確かに実質問題は無いのだが……ううむ。

ただ、犬養は自身に潜む性欲モンスターの存在を自覚しないように抑え込んで

来た長い歴史があるから仕方が無いとも言えるし、圧倒的性豪なだけに妄想とかする必要が無いのかも知れない。その辺りは本物の性豪になってみないことには分かり得ないところなのだろう。万道でも少し追い付けない部分があるくらいなのだ。

ん？ 圧倒？

そうか、普通にやっても圧倒されるんだから、それを『普通』って流さないで、『どうしようもなく圧倒された』と思われるような仕掛けを、顧客にとって忘れられないくらい圧倒するプレイを。

圧倒を誇張するならやっぱアレ！ だなっ！ 決まりだな！

万道は大急ぎでプロットを練って、犬養に連絡をし、そして、記念すべき犬養の初めてとなる顧客の抽出とスケジュールのネゴシエーションを進めて行った。



(こちらは体験版です)



第2章

予定通り進む訳が無い



(こちらは体験版です)



本領発揮

第3章



(こちらは体験版です)



第4章

オーバーキルの矛先



(こちらは体験版です)



第5章

伝説が生まれる現場



(こちらは体験版です)





分からせ対抗教習

OpusNo. Novel-091
ReleaseDate 2024-07-24
CopyRight © 山牧田 湧進
& Author (Yamakida Yuushin)
Circle Gradual Improvement
URL gi.dodoit.info

個人で楽しんでいただく作品です。
個人の使用範疇を超える無断転載やコピー、
共有、アップロード等はしないでください。
(こちらは体験版です)